

自分の言葉で： 盗用を避けるためのベストプラクティス

研究論文は通常、過去の研究に依拠したり、これを修正するもので、学術的キャリアでの成功において非常に重要です。しかしながら、過去の論文を不適切に引用したり、使いまわしたりすると、発表の可能性を減少させ、キャリアの展望を損なうことにもなりかねません。

米国研究公正局では、盗用を「引用元を適切に明記せずに、他人の考え、過程、結果、言葉を自分のもののように使用すること」と定義しています¹。言い換えれば、盗用とは自分以外の人の考えを自分のもののように見せかけることです。実際、Plagiarism（盗用）の元となるラテン語は、誘拐または窃盗を意味します。このような窃盗は学術的な不正行為のひとつであり、研究者としての信用を貶め、論文を受理してもらえない、学術雑誌から論文が撤回される、大学や研究所から解雇されるなどの事態につながる場合があります。不幸なことに、このような状況にもかかわらず、

学者は論文発表のプレッシャーを感じた、認められたい、出世したいという願望に駆られた、英語で記述することに不安を感じた、自分自身の言葉で複雑な考えを表現することに苦しんだ、など数々の理由から盗用する誘惑にかられます。盗用は意図的なものだと考えがちですが、偶発的にも発生します。論文執筆時の不注意、数少ない参考文献への著しい依拠、「真似は賞賛の最善の形態である」という文化的な信仰、盗用とは何かについての理解不足などは、すべて不注意による知的財産の窃盗につながる可能性があります。

盗用の形態

一般的に最もよく認識されている盗用には以下の2つの形態があります。

1. 逐語的な盗用

他人の論文から一語一語そのままコピーすること。複数の原本からの内容が複製されている場合、このタイプの盗用はモザイクまたはパッチワークと言われます。

2. 考えの盗用

論理、解釈、データ、手法、意見、または新しい専門用語のかたちで、引用元を明記せずに他人の独自の考えに言及すること、自分自身の言葉で置き換えた場合も含まれます。

1 「Definition of Research Misconduct」から引用 <http://ori.dhhs.gov/definition-misconduct> を参照

さらに、一般的にあまり認識されていないものの、同じように憂慮される形態の盗用が他にもいくつかあります。

わずかな言い換え。

他人の論文をわずかに変更しただけで言い換えること。他の著者の論理を実質的には維持しながら、ほとんど同じ、または全く同じ考えに言及すること。論拠の流れは実際、オリジナルな考えであることに注意してください。

学術文献以外からの盗用。

学術文献ではない、一般に入手できる情報の出典を明記しないこと。論文に独自の情報を寄与している場合、学術雑誌の論文と同様に、書籍、ウェブページ、ブログ、講義、個人的な通信物（許可を得ずに未発表の考えを記述することを含む）などの出典を明記しなければなりません。

自作の盗用および重複発表

自分自身が過去に発表したテキストを小規模（ひとつの原稿からひとつのパラグラフを2つ目の原稿の手法のセクションに再利用するなど）または大規模に（2つの異なる学術雑誌に同じ原稿を発表するなど）使いまわすこと。これは、盗用において最もよく見過ごされているカテゴリーです。自作の盗用や重複は他人の独自の考えを盗むことには当たりませんが、多くの学術雑誌が、あなたの研究が他のどこにも発表されていないことを確認するよう求めていることから、この行為は非倫理的であり、著作権法の違反となる場合もあります。

段階別の執筆プロセス

研究者は論文が発表される可能性を高めるためにどのように盗用を回避することができるのでしょうか？

インターネットを介して研究論文へのアクセスが高まっていること、コピーアンドペースト機能の利用しやすさ、終身地位保証を獲得して助成金を得るために高い影響力をもつ学術雑誌に頻繁に論文を発表しなければならないというプレッシャーの高まりから、盗用は増大する傾向にあります。事実、*PNAS*は、削除された学術雑誌論文の10%が他人の考えを盗用したために撤回されたこと、14%が重複発表のために撤回されたことを報告しています²。しかしながら、思考の窃盗は学術関係者における意識が高まったことから、今まで以上に検出されています。

学術文献に精通した査読者は以前に発表された論文に似たデータや表現に気づき学術雑誌に警告することができます。ひとつの論文内で文章のスタイルや語り口が違ったり、より関連性のある資料と一緒に一見関係ないような考えがあわせてコピーされていたりすると、論文が盗用された可能性があるという警告を発する可能性があります。さらに、多くの学術雑誌が、盗用検知ツールを使用して、（CrossCheck™など）提出された論文を、大規模な発表済みの論文のデータベースと比較するようになっています。

2 Fang, F.C. et al. 2012 "Misconduct accounts for the majority of retracted scientific publications" *PNAS* 109(42): 17028-17033.
入手先：<http://www.pnas.org/content/109/42/17028.long>

広く認知されている盗用およびあまり一般的に認知されていないタイプの盗用が、学術文献の発表において大きな問題であることは明らかですが、研究者は論文が発表される可能性を高めるためにどのように盗用を回避することができるでしょうか？こちらに執筆過程の各手順をご紹介します。

ステップ1：

書き始める前に、文献を見直しながらか、出典を注意深く記録する。Zotero、ReadCube、EndNoteなどの引用用のソフトウェアがこの段階で役立ちます。

ステップ2：

執筆中、不注意にコピーすることを避けるために、参考文献をそのまま引用しないようにしてください。内容を多様化するために複数の参考文献を使用し、出典を多すぎくらいに明記します。参考文献を引用すべき場合についての詳細は下記をご覧ください。

ステップ3：

執筆後、論文と参考文献リストを見直し、適切な出典がすべて記載されていることを確認する。さらに、Turnitin、iThenticate、eTBLAST、または他の検知ツールを使用して不注意による盗用がないかどうかを確認してください。

まとめると、盗用は、研究論文を準備する過程全体で意識的に回避しなければならない大きな問題です。自分の言葉を使って書くための時間をとることで、論文の影響力を高めることになります。

引用元を明記すべき場合：

- 論文に文章をそのまま引用する場合、たとえ2つの語句を参照するだけでも、これを引用符の内側に配置しなければなりません。引用符は語句が言い換えにくかったり特徴的すぎる場合に特に便利です。
- 出典にかかわらず、独自の考えや論理、または他の情報を言い換える場合 適切な言い換えや出典の明記によって、自分の主張や論理という文脈のなかで、他人の考えと自分の考えとを区別します。
- 自分が過去に発表した論文に言及する場合。
- 他人の図表を複製したり、加工して使用したりする場合（適切な許可を得た後）。

引用元を明記しない場合：

- 現在執筆中の論文で初めて発表する自分の研究を詳述する場合。
- 一般情報に言及する場合— 一般的な参考文献で入手できる情報、または最低5つの出版物で出典を明記せずに記載されている情報³（歴史的な事象の日にちや一般的な実験手法など）。ある概念が自分の分野で既知のものであるからといって、一般情報とは限られないことに注意してください。情報が一般に知られているかどうか不明な場合は、出典を明記してください。

3 <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/589/2/>



著者

AJEの社内編集者であるパンター博士は2008年より当社で編集に携わっています。エール大学でと生体工学の理学士号と理学修士号、免疫生物学で博士号を取得。博士論文のテーマは人間の細胞における抗原提示。また、*Yale Journal of Biology and Medicine*の編集長、理工学部の大学院生に対する論文執筆アドバイザーも務めています。



AJEは、世界の学術専門家および研究者に論文作成サービスを提供する世界有数の会社です。

Manuscript Editing | Translation | Figures Services | Formatting